

第 2 号議案 2013 年度 事業報告

(1) 年次大会(第 111 回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2013」開催報告

実行委員長：村山久夫，実行副委員長：一宮孝司，長山智男

2013 年 6 月 12 日(水)～14 日(金)の 3 日間、日本画像学会年次大会（通算 111 回）[Imaging Conference JAPAN 2013]を横浜市緑区にある東京工業大学すずかけ台キャンパス「すずかけホール」にて開催した。例年の通り、ハードコピーをはじめとする各種マーキング技術、電子ペーパー / エレクトロニック・イメージング / 新規イメージング技術 / デジタルファブリケーション技術、そして画像関連技術、計測 / シミュレーション技術などについて、それらの基礎研究や実用技術の研究発表により、全部で 8 技術分野、19 のセッションを設けた。その中で、一般講演 69 件、特別講演 10 件（キーノートスピーチ 3 件、ビジネスセッション 3 件、招待講演 2 件、受賞記念講演 2 件）を行った。また、3 テーマの技術ワークショップの併設と、関連企業 13 社による展示会を開催した。

今回の大会コンセプトは「Imaging Technology, Beyond Limitation」(～イメージングテクノロジー，極限化に立ち向かう～)として、イメージングの主要な位置を占めてきたプリンティングが、新技術目白押しの時代が過ぎて久しく、技術極限に達したといわれる一方、Digital Fabrication が確固とした地位を占めるなど新たな発展を模索する動きも見える中で、イメージング技術がいかに処していくべきかを探っていくという趣旨で開催した。大会の中では、参加者の皆様にイメージング技術の新たな展開を意識していただくことを目的として、短焦点プロジェクタシステムを用いたデジタルサイネージによる各会場の進行状況案内や、ワークショップ企画の 1 テーマと連動した 3D プリンタの展示実演などを行った。

大会初日は、村山久夫大会実行委員長（株式会社リコー画像エンジン開発本部長）より、開会の挨拶を行い、3 日間の大会の幕を開けた。引き続き、キーノートスピーチとして「ドキュメントの新たな価値提供」として、富士ゼロックス株式会社大西康昭様より、ドキュメントの価値の定義（ドキュメントは人間が有効に活用することで初めて大きな価値が引き出される）とともに、ドキュメントの構造やドキュメントに対する操作に新しい観点を設けることで付与できる新たなドキュメントの価値提供についての解説がなされた。そして、本キーノートスピーチに関連した特別セッション「イメージングの新たな価値提供」を設け、招待講演として株式会社リコー岸秀信様より「画像をキーに新しいメディアのカタチを実現する ClickablePaper™ サービス」、富士ゼロックス株式会社長ヶ部英資様より「手書き情報データ入力システム「Denshi-Pen」」、加えて一般講演から関連技術内容として選出した、キヤノン株式会社國枝寛康様からの「提案型アプリケーションを実現した自動写真レイアウト技術」の 3 件のご講演により、今後、発展すると期待されるデジタルメディアへの付加価値を提供する技術の議論がなされた。

同日午後には、ビジネスセッションを開催し、「研究と事業化の間のデスバレーを乗り越えて」というテーマで 3 件のご講演により、大会コンセプトのフレーズにもある「極限化に立ち

向かう」の点に対して、参加者の皆様に新たな展開領域を切り開くヒントを見つけていただく目的で企画した。最初に、株式会社パイロットコーポレーション兼パイロットインキ株式会社中筋憲一様より、「メタモカラー原理の誕生からフリクションペンの事業化へ」のご講演をいただいた。「変化する」という意味から「メタモカラー」と名付けられた色材において、その色変化と変色温度を自由自在に設計できることを基として、お風呂の玩具や、ビールの飲みごろラベルなどに応用してから 30 年後に、書いた文字をラバーで擦った摩擦熱で文字が無色になる筆記具「フリクションペン」に到達した、技術的な発展と応用用途の展開の歴史が解説された。次いで、相談ネットコム酒井孝典様より、「Amazon.com Before and After ~ アマゾンが世にもたらしたものとその DNA ~ 」と題して、アマゾン・ドット・コムがなぜ、ユーザーからの熱狂的な支持を受けるのか、どのように世界を変えていったのか、本に始まり現在では 50 を超える商品カテゴリーへと成長し、さらに電子書籍にまで発展したアマゾンの DNA を振り返るとともに、E-retailer が今後どのような進化を遂げるのかという方向性についてのご講演をいただいた。最後に、イマネット社八木博様より、「米国製造立国への動き 政府主導のイノベーションからものづくり立国へ」と題するご講演により、米国政府が進める Innovation 推進の仕組みと予算の流れを紹介いただいた。

上述のビジネスセッションと平行して、インタラクティブのポスター発表を製品展示会と同会場にて開催した。今回はポスター展示を 3 日間行うことで各日の参加者の皆様にもポスター発表内容を見ることができるようになった。同会場では、夕刻に懇親会も行われた。ポスター発表技術の討議、各展示会社様との技術交流とがと伴に、大会参加者の親睦や休憩の場として、有効に活用できたと考える。

大会二日目は、キーノートにおいて「デジタルプリント技術の将来課題 (POD の進展に向けて)」とのタイトルで、株式会社バリューマシーンインターナショナル宮本泰夫様よりご講演いただいた。フルカラー印刷を実現するデジタルプリント (POD) 技術の進歩とは裏腹に、目論見通りには進んでいない市場への導入の現状について、市場環境の変化、コンベンショナル技術の進展など様々な要因と伴に、「これまでのデジタルプリント技術の開発方向性に市場ニーズとのギャップはなかったのか?」との視点で、デジタルプリント市場の現状と課題を踏まえ、目指すべき将来についてご議論をいただき、参加者の皆様にも大好評であった。またこの日は、3 件のワークショップのうち「3D プリンターの各造形方式とその実際 ~ 印刷技術は Z 軸の夢を見るか? ~ 」と、「視覚研究を工学・産業にどう生かすか?」の 2 件を開催しました。特に前者の「3D プリンター」については、参加者の皆様の理解をより深めるために、代表的な方式の複数機器について同一の場所で動作デモンストレーションを 3 日間行った。ワークショップのもう 1 件の「トナー静電付着力の徹底討論」は最終日に開催した。

三日目最終日には、「フレキシブル・プリンテッド有機エレクトロニクスの研究開発」と題し、山形大学有機エレクトロニクス研究センター時任静士教授に、キーノートスピーチをいただいた。画像技術と有機材料技術を基にして発展した、フレキシブル・プリンテッド有機エレクトロニクスの研究開発について、将来展望と、その応用用途の一例であるフレキシブル有機 EL ディスプレイの基盤技術の開発状況について紹介いただいた。さらに、印刷技術を使った微細配線技術や有機薄膜トランジスタの作製技術およびそれらを活用したフレキシブル集積回路応用についても紹介いただいた。

本大会は、昨年に引き続き、会場には横浜市にある東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールを利用させていただき、大会準備から当日までと開催にあたって絶大なご協力をい

ただいた、東京工業大学関係者に深く感謝いたします。プログラム構成には配慮しましたものの予想より入場者数の多い会場があり窮屈になったこと、昼食時の食堂が込み合いましたこと、会場の空調調節にムラがありましたことなど、参加者にご迷惑をおかけした部分も多々あります。深くお詫びするとともに、次回以降の課題として改善すべく取り組んでいきます。

最後に、本大会を運営する上でご協力をいただきました実行委員の皆様、学会理事の皆様、また多くの研究発表をいただいた大学関係の方々、並びに画像技術に関わる各社の研究発表者の皆様に感謝を申し上げますとともに、ご参加いただいた多数の会員の方々へ御礼を申し上げます。

来年度も、引き続き東京工業大学すずかけ台キャンパスにて、6月に開催する予定です。本年と変わらず多くの発表と活発な議論が出来ますよう、実行委員会メンバーで準備を開始いたします。来年度の大会へのご協力のほど、よろしく願いいたします。

プログラムは本稿後半に記載（付録1）。

(2) 総会

2013年 6月 12日 Imaging Conference JAPAN 2013(ICJ2013) 開催初日に東京工業大学すずかけホールにおいて第56回定時総会を開催した。2012年度からは出欠連絡と各議案の賛否投票についてはweb回答可能な会員にはハガキ送付を廃止したが今年度の個人会員の回答率は63%であった。回答率の推移は2010年度：67.7%、2011年度：62.7%で、2012年度63.6%で今年度はほぼ前年並みであった。

第56回総会は半那会長の挨拶の後、半那会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

2013-14年度役員候補の承認（第1号議案）

2012年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認（第2号議案、第3号議案）

2013年度事業計画および同収支予算の報告（第4号議案）

第56回定時総会の議案と議事録は、当学会ホームページからもご覧いただけます。

http://www.isj-imaging.org/about_ISJ/assembly.html

(3) 2012 年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2012 年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞および名誉会員の選考を行い、2013 年 6 月 12 日開催の表彰式の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。

(敬称略) 掲載号：日本画像学会誌，第 52 巻，第 4 号，(通巻第 204 号)， pp. 320-330

< 学会賞 (第 19 回) 1 件 >

川本広行 (早稲田大学)

< 功労賞 (第 19 回) 2 件 >

山崎 弘 (コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社)

大西 勝 (株式会社 ミマキエンジニアリング)

< 論文賞 (第 27 回) 1 件 >

著 者：瀬尾 学、塚本武雄、法兼義浩 (株式会社リコー)

論文名：「レーザー Doppler 振動計を用いたインクジェットノズル乾燥過程の研究」

掲載号：日本画像学会誌，第 51 巻，第 2 号，(通巻第 196 号)， pp. 131-138

< 研究奨励賞 (第 20 回) 3 件 >

青野博之 (富士ゼロックス株式会社)

「二成分現像におけるキャリア摺擦が画質に影響を及ぼすメカニズム」

Imaging Conference Japan 2012, pp. 185 - 188

江口弘樹 (キヤノン株式会社)

「定着プロセスにおける静電オフセット解析」

Imaging Conference Japan 2012, pp. 201-204

八田 達 (東海大学)

「PELID 法を利用した三次元バイオデバイスの作製」

Imaging Conference Japan Fall 2012, pp. 23-25

< 日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞 (第 8 回) 1 件 >

梅津 信二郎 (東海大学)

研究題目：「静電インクジェットのバイオプリンティング、デジタルマイクロファブリケーションへの応用」

< 会長特賞 (第 13 回) 1 件 >

鶴岡 亮一 (富士ゼロックス株式会社)

< 名誉会員 (第 7 回) 2 件 >

平倉浩治

北村孝司

< 技術賞 (第 23 回) 3 件 >

技術：「リライタブルレーザーシステムの開発」

株式会社リコー 石見知三、川原真哉、山本和孝、古川隆弘、堀田吉彦

技術：「スーパーインクジェット技術の開発と実用化」

株式会社 SIJ テクノロジ 村田和広

技術：「プロダクションプリンタ Color1000Press 用インライン画像センサの開発」

富士ゼロックス株式会社 石井 昭、伊藤昌夫、石崎 直、風間敏之、中家勝彦

(4) 年次大会(第 112 回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2013 Fall Meeting」開催報告 (関西委員会)

実行委員長：浜田敏正，実行副委員長：夏原敏哉

2013 年 11 月 22 日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375 番地)にて、Imaging Conference Japan 2013 Fall Meeting を開催した。技術賞受賞記念講演 3 件、一般口頭発表 7 件、ポスターセッション 9 件の発表があった。研究討論会への参加者は 59 名(前年 61 名)であった。

本年も編集委員の投票による編集委員長賞、参加者と実行委員の投票によるベストポスター賞を設定し下記の方が受賞されました。また、前日の技術講習会で展示頂いた表面分析機器メーカーの方を囲んで計測機器への要望を議論するワークショップを開催し、メーカー、参加者ともに好評を博しました。

本年は印刷学会、写真学会と協力し、夫々の秋季研究討論会に参加された聴講者は、無料で相互の研究討論会に参加可能としましたが、Imaging Conference Japan2013Fallにご参加された方は 1 名のみでした。アンケートを参照すると別の日に再度会場に運ぶのは大変、あるいは日にちが離れていて活用しにくいとのご意見がありました。これらを参考にし、来年は画像関連学会が同じ会場で同日に開催することを検討致します。今後も、各種施策を実施し、活発な議論の場を提供して参ります。(参加者数59名:会員44名、学生15 名)

編集委員長賞：塗布型有機電界効果トランジスタのホッピング輸送

岡田 純¹、永瀬 隆¹、小林 隆史¹、瀧宮 和男²、池田 征明³、内藤 裕義¹

(¹大阪府立大学、²広島大学、³日本化薬株式会社)

ベストポスター賞：回転スクリーンを用いた体積型立体表示の原理実験

関谷 陽一、藤川 知栄美、面谷 信(東海大学)

プログラムは本稿後半に記載(付録 2)。

(5) 評議員会

2013 年 3 月 13 日に東海大学校友会館(東京・霞が関)において開催し、2012 年度事業報告、同財務報告、2013 年度事業計画、同財務計画、学会ビジョン 55 及び ICJ2013 概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。

今回から事業報告に関しては運営・編集・技術・企画・コンファレンス・広報の各委員長からより詳細の説明を行った。

又、当学会のビジョンに関してビジョン委員会の成果として学会ビジョン 55 が初めて外部に公表された。

出席者は 53 名(評議員 20 名、顧問 2 名、役員他 31 名)で終了後、特別講演会、懇親会を行った。

(6) 理事会

下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、2013年度選奨、2013年度予算執行状況の確認、2014年度予算案の審議・承認等をおこなった。

・2013年

第1回：5月22日(水)午後4時～6時	霞会館
第2回：8月27日(月)午前10時～12時(午後：役員研修会)	霞会館
第3回：10月18日(金)午後3時～6時	霞会館
第4回：12月10日(火)午後3時～6時	霞会館

・2014年

第5回：2月12日(火)午後3時～6時	霞会館
第6回：3月11日(火)午後1時～3時	東海大学校友会館

2013年度の理事会活動で最も大きな比重を占めたものは、6月の定時総会で発表した学会ビジョンの具現化である。このために、ビジョン策定という役割を終えたビジョン委員会は13年度上半期で解散し、9月度から新たにビジョンに基づくアクションアイテムの具現化のため「革新委員会」を理事会から選出したメンバーで立上げた。

学会ビジョンの詳細は(19)ビジョン委員会報告で詳述するが、ビジョンに基づく当学会のミッションである。

- 1) 知的快感が得られ、かつ知の幅が広げられる学会へ向けて議論する技術分野を増やす
- 2) インキュベートの場の提供とそれを支える人材と組織の強化
- 3) 画像生活環境の情報提供

に沿い、「技術領域」と「組織力強化」の2視点に分けてアクションプランを策定している。

「技術領域の強化」では、新技術領域の設定、ビジョンに基づく国際会議開催、技術委員会拡充、「組織力強化」では、学会としてのインフラ充実(委員会組織の活性化)、標準化や政府への提言(インパクトファクター取得と科研費獲得、等)、人材育成・教育(講習会等の教育を充実)のアイテムごとに革新委員会でアクションプランを検討・実施準備中である。

これらのビジョン具現化活動は、毎年夏に理事会メンバー全員で実施している役員研修会(当年度は8月27日に実施)で下記4テーマに分けてアクションアイテムを整理し、その後の推進と進捗を革新委員会で受けて整理し理事会に報告している。

下記はその概要である。

学会の価値向上/パフォーマンス提示(委員会活動の活発化)

) 学会誌の価値向上としてインパクトファクター(IF)の取得

- ・ 査読体制の整備を編集委員会で進めた結果、査読者を20名から50名に増員した。
- ・ 4学会合同誌について4学会連合会で常に意識して進める。

) ICIを長期計画に基づいて運営(運営委員の常設化)

- ・ カンファレンス委員会が年度を跨いで一貫した方針を決める。このために同委員会を会長・副会長・幹事会社TOPまで含めたメンバーに拡張する予定である。

) 画像関連の萌芽技術の取り込みを推進(研究会の合同開催)

- ・ 「最先端技術探索チーム」を技術委員会主査で構成し「気になる萌芽技術TOP10」を

次年度年次大会 ICJ2014 で発表する予定である。

サービスの向上・拡充（学会認知度の向上）

学会を支える若手技術者の育成をめざし非会員、若手へのオープンな講習会を開催すべく、事業委員会でサービス向上・拡充プロジェクトを設置、アクション計画を立案中である。

標準化活動・政府への提言の検討

本学会の技術領域で国際標準化活動に関係するアイテムについて、技術的な面での見解やデータを提供することで国際標準化活動に貢献できないか検討を進める。

インフラの充実による運営体制の強化

学会活動の活性化、および会員へのサービス強化のためには、理事会や各委員会の活動を従来以上に活発にしなければならない。このため革新委員会が中心になりビジョンに基づいて各委員会のミッションの見直しを図り、必要に応じて委員会メンバーの増員・強化や、場合によっては委員会の新設や統合を含めた運営体制の強化を検討している。

【画像関連学会連合会】

上記学会ビジョンを基にした今年度の大きな動きとして、技術領域の拡充に向け、画像関連の学会間での連携を強化するための活動を開始した。

具体的には、2012年12月に当学会の半那会長から画像電子学会、日本印刷学会、日本写真学会の各会長に技術領域での連合を呼びかけ、各学会の基本的賛同を得たのち、2013年2月に画像関連学会連合会設立準備委員会を立上げ、連合会発足に向けて活動を開始した。この準備委員会は2013年度中に計5回の会合を重ね、連合会会則の検討、研究討論会の相互乗り入れ、合同学会誌（英文誌）の可能性、2015年に予定する国際学会 ICAI の準備活動などについて議論を重ね、発足への準備を整えた。また、先行して2013年の秋季大会の相互乗り入れを日本写真学会、日本印刷学会と開始し「京都の秋は画像が熱い」のスローガンの下に3週連続で開催し、2014年からは4学会での合同開催を準備段階とは言え、決定し、関西委員会を主体としてその準備に入った。

連合会の正式発足は2014年3月を予定している。

(7) 事務局報告 事務局長 緒方信康

- ・ イベント関連では例年とおりの研究討論会、研究会、講習会、フリートーキング、イメージングカフェを開催した。イベントの開催回数21回、開催日数24日と前年より減り、参加者数トータルでも前年を下回る結果となった。
- ・ 学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号1500部前後であり、年6回、編集委員会 印刷会社 発送会社経由で発行されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。
- ・ イベント参加登録のWeb経由システムは全ての研究会、研究討論会、講習会で実施しており少額参加費のイメージングカフェとフリートーキングのみメールベースでの参加登録を行っている。但し、イメージングカフェは後半からは自動返信できるシステムを構築し事務局負荷の低減が実現された。

- ・ 理事会、各種委員会・部会の開催件数は例年同様、年間 90 件以上で活発な議論が交わされている他、今年度からは画像関連学会連合設立委員会や国際会議（ICAI）準備委員会など 10 件近くの会議が新たに追加された。

○年度別個人会員数の推移

2004 年度～2013 年度末まで 10 年間の会員数推移を示す。2008 年から会員数の減少が続いたが、歯止めがかかったかに見える。

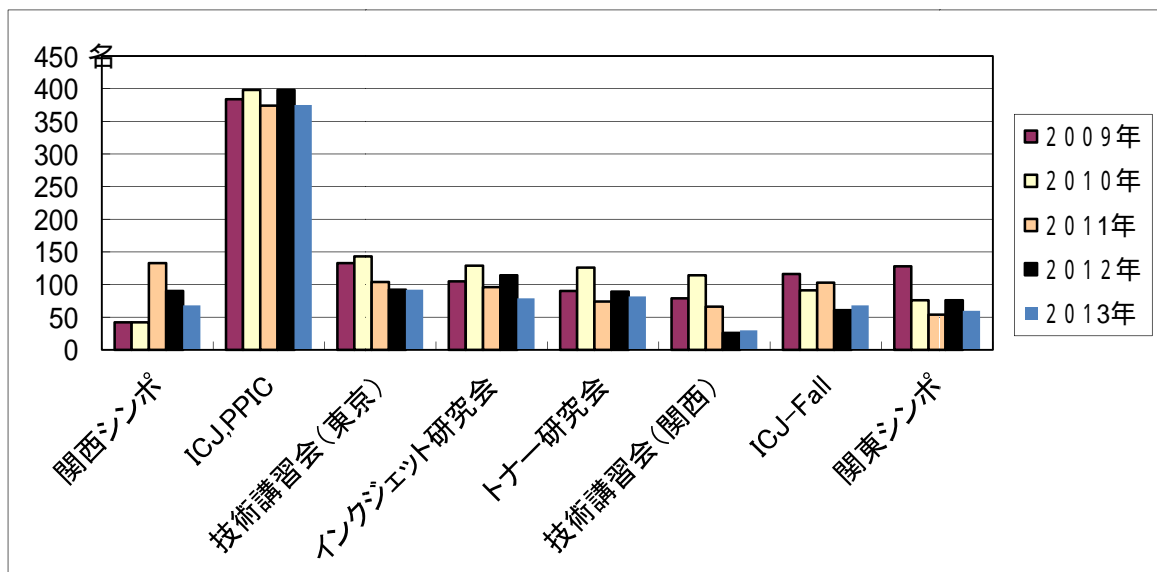
年度	個人会員数 (名)
2004年	1147
2005年	1133
2006年	1130
2007年	1206
2008年	1137
2009年	1037
2010年	1027
2011年	998
2012年	947
2013年	954

個人会員数(名)



○学会の主なイベント参加者推移

2009 年度～2013 年度 5 年間の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの有料参加者推移を示す。有料参加者総数は 2010 年後半に回復傾向が見られたが、その後減り続けており 2013 年度は前年度から約 150 名減少した。



(8) 運営委員会 委員長 中居仁司 (ブラザー工業)

- ・学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。詳細は其々の報告をご参照されたい。この他に運営委員会が主導した2013年度の活動として、次の2点がある。

(1) 役員研修会

- ・2013年8月27日(火) 霞会館にて役員研修会を開催した。今年度学会内外に公開した学会ビジョンに基づき次の4テーマに分れて検討を行った。

「学会の価値向上/パフォーマンス提示」(委員会活動の活発化)

「サービスの向上・拡充」(学会認知度の向上)

「標準化、政府への提言」

「インフラの充実による運営体制の強化」(学会経営基盤の強化)

- ・上記テーマごとのアクションアイテムは役員研修会当日のラップアップ、及び2013年10月18日第3回理事会でその結果が承認され、革新委員会を中心に夫々該当する委員会で活動を展開中である。詳細は(6)理事会の項で記述した。

(2) 執行部会

- ・2012年度第3回理事会で、正副会長と運営委員長が「執行部」を形成し学会運営に関する諸案件の迅速な執行を行うこととなった。2013年度、執行部会は2014年3月までに4回開催し、主な検討案件は次のとおりである。

- ・選奨関係：13年度から新設したフェロー、技術研究賞の2つの新賞の「候補者の検討や学会賞、会長特賞、功労賞、等の候補者の抽出。
 - ・評議員会の開催方法、維持会員との双方向対話の促進方策
 - ・画像関連の他学会との連携の推進
 - ・運営委員メンバー増強・委員長交代に伴う業務分担の見直し
- ・執行部会での重要な決定事項は全て理事会に諮った後に実行することが前提で進めている。

(9) 編集委員会 委員長 前田秀一 (東海大学)

編集委員会を7回開催(うち1回は年間編集計画作成のため、京都にて合宿を実施)、フリートーキング“Imaging Today”を2回開催し、学会誌年6冊を定時発行した。本年度も年6冊の学会誌のうち、1冊(206号)をクラスタ論文誌とし、全論文を特定技術分野(今回は、数値シミュレーション技術)に絞り、全て英文化した形式で発行した。今後も年1回のペースで発行する予定である。研究室訪問、教育講座などの企画もこれまで通り実施した。フリートーキングについては、収益改善策を検討し、一部の運用を開始した。また、今年度より、情報交換、コラボレーションの検討などを目的として、画像関連学会連合会(画像電子学会、日本印刷学会、日本写真学会、日本画像学会)の編集委員長会議が開催されるようになった。すでに二回(2013年10月25日、2014年1月24日)開催され、電子化や英文化状況などの情報共有を実施している。今後も四半期に一度の頻度で開催する予定である。

201号(Vol.52, No.1) 2月刊 88頁 巻頭言(会長)、一般論文1件 解説1件 Advanced Technology 「分子デバイスの基礎から応用展開」、教育講座「界面化学」、研究室訪問「東京大学生産技術研究所大島研究室」、会報、会告、投稿案内、日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子

学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次，画像閑話
202号 (Vol.52, No.2) 4月刊，86頁，一般論文1件，ノート1件，Imaging Today「過去および現在の画像材料技術の本質を探る 画像形成材料の温故知新」，教育講座「界面化学」，研究室訪問「中央大学加藤研究室」，会報，会告，投稿案内，日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・影像科学与光化学の目次，画像閑話

203号 (Vol.52, No.3) 6月刊，78頁，一般論文2件，Imaging Today「最新の医用画像」，教育講座「基礎から学ぶ紙の科学」，研究室訪問「大阪大学菅沼研究室」，会報，会告，投稿案内，日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学・韓国画像学会誌 (JKSIST) の目次，画像閑話

204号 (Vol.52, No.4) 8月刊，150頁，一般論文3件，Imaging Today「環境/省エネ：法規制と要素技術」，教育講座「基礎から学ぶ紙の科学」，研究室訪問「京都大学井手研究室」，2012年度学会表彰，一般社団法人日本画像学会第56回定時総会資料，会報，会告，投稿案内，日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学・韓国画像学会誌 (JKSIST) の目次，画像閑話

205号 (Vol.52, No.5) 10月刊，84頁，一般論文2件，速報1件，Imaging Today「最近のプロダクションプリンター」，教育講座「基礎から学ぶ紙の科学」，研究室訪問「筑波大学江前研究室」，会報，会告，投稿案内，日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学・韓国画像学会誌 (JKSIST) の目次，画像閑話

206号 (Vol.52, No.6) 12月刊，120頁，一般論文2件，クラスタ論文「Progress in Key Technologies of Numerical and Physical Analysis for Imaging Process」，Prefatory Note，7 Invited Papers，5 Invited Reviews，教育講座「基礎から学ぶ紙の科学」，研究室訪問「早稲田大学川本研究室」，会報，会告，投稿案内，日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学・韓国画像学会誌 (JKSIST) の目次，画像閑話

第23回フリートーキング“Imaging Today”「過去および現在の画像材料技術の本質を探る」

2013年4月26日(金)開催，東京工業大学すずかけホール(横浜市)，参加者45名

第24回フリートーキング“Imaging Today”「最近のプロダクションプリンター」

2013年10月24日(木)開催，東京工業大学すずかけホール(横浜市)，参加者80名

(10) 技術委員会 委員長 面谷信 (東海大学)

1. 技術委員会全体の活動状況

(ア) 2008年度よりの委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制を、2013年度も継続。

(イ) 2013年11月6日(水)に第1回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技術委員会関連の課題等について議論を行った。2013年度は、2014年1月28日(火)(技術委員会総会と同日)に第2回目の主査会議を開催した。

(ウ) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として2013年度は2014年1月28日(火)に開催した(総会出席回答者63名、懇親会出席者51名)。総会に先だて同日に10部会が開催された。

(エ) ICJ のワークショップに技術委員会からの企画で 2 件のワークショップ（一件はシミュレーション技術部会主査とトナー技術部会の合同企画、もう一件は画像感性部会の企画）を開催した。

(オ) 選奨対象候補のエントリー数増加に技術委員会として協力し、技術委員会として各部会に積極的に候補抽出を督促し、技術賞、コニカミノルタ研究奨励賞、会長特賞の候補抽出に貢献した。

(カ) 2013 年 4 月～2014 年 3 月の間にシンポジウム 1 回（電子写真技術部会: 12/6）、技術研究会 3 回（インクジェット技術部会とデジタルファブ리케이션部会の合同: 第 117 回(9/20)、トナー技術部会: 第 118 回(10/11)、電子ペーパー部会とデジタルファブ리케이션部会の合同:119 回(10/22)、および画像 4 学会合同研究会(画像処理部会: 12/12)) を開催した。

2. 各部会の活動状況

1) 画像評価技術部会

- ・ 4 回の部会を開催、その他、千葉大学 情報画像工学科 津村研究室を訪問し画像工学の今後についての意見交換を実施。部会では、今後の活動計画、新規テストチャート開発等について審議を継続中。

2) 電子写真技術部会

- ・ 定例会会 4 回、シンポジウム企画会議を 4 回、企画合宿（東海大学 面谷先生・前田先生訪問）を 1 回開催した。
- ・ 日本印刷学会 第 9 回「紙メディア」シンポジウムにて講演「電子写真プリンタ用紙のグローバル化の現状と品質課題」（服部・校條）
- ・ 東海大学 学生向け静電気記録実験を含めた電子写真技術講座を開催。
- ・ 日本画像学会シンポジウム「環境負荷低減技術」～環境のためにできること、最新技術、今後進むべき方向は？～（12月6日、於：発明会館）を企画・開催した。

3) トナー技術部会

- ・ 定例会議を 5 回、合宿会議と研究会を各 1 回開催し、またシミュレーション技術部会と共催という形で ICJ2013 で WS を開催した。
- ・ 主な活動項目は、以下の 5 つである。
- ・ 3.1 標準キャリアの帯電量を検定するための、トナーの代替となる標準粒子の探索
- ・ 3.2 トナー関連技術の深耕につながる技術研究会の企画及び開催
- ・ 3.3 標準キャリアの利用を促すために研究会での標準キャリア関連の検討内容の報告
- ・ 3.4 大学/研究機関見学による委員の知識の拡大と、学生を対象とした産学連携となる講演の企画・実行
- ・ 3.5 用語部会のサポート
- ・ 上記 3.1 に関しては、綜研化学の 5 μ m 粒子を候補とし、外添剤の有無による標準キャリアに対する表面の帯電状態の SPM 観察と平均帯電量との相関の継続検討を行った。
- ・ 上記 3.2 に関しては、「詳しく知りたい！トナー物性、トナー市場の今、そして将来技術」をテーマとし、7 つの講演を集めた研究会を 2013 年 10 月 11 日に開催した。
- ・ 上記 3.3 に関しては、ICJ2013WS でトナー表面の帯電領域に関する見解と SPM によるトナー表面の帯電電位分布測定に関して発表を担当し、また、10 月の研究会では、標準キャリアを用いて粒子粉体の表面の帯電状態を系統的に変化させて SPM で観察・測

定した検討結果について報告した。

- ・ 上記 3.4 に関しては、キヤノンの技術と事業内容を展示しているキヤノン・ギャラリーの見学会を 11 月の部会時に行った。
- ・ 上記 3.5 に関しては、従来「用語集」から更新対象語句 192 語を選定し、また、新規追加語句としては出版した「ケミカルトナー」を対象としてそこから 90 語を選定し、見直しと追加検討を行い、追加語句 84 語と更新語句 58 語の見直し・追加案を第二次改定案として用語部会に提出した。

4) 画像処理技術部会

- ・ 部会の開催はできなかったが、メール等を利用して、階調再現を主体とした教科書発行の可能性の検討を始めると共に、ICJ2013 のワークショップでは、小寺委員が関連テーマの「視覚特性を考慮した画像処理」で講演を行った。
- ・ 画像 4 学会合同研究会については、画像電子学会が幹事学会となって「リアル 3D 再現」- 3D プリンティング, 3D 再現のための入力から出力までの技術動向と応用 - のテーマで早稲田大学の西早稲田キャンパスで 12 月 12 日に開催した。関係するデジタルファブリケーション部会から酒井主査にも実行委員として参加いただいた。3D 再現への関心の高さを反映して有料参加者 64 名の 81 名が参加し、会場が小ぶりだったこともあったので、ほぼ満員の盛況であった。
- ・ 2014 年度については、部会自体の有りかたを含め、画像処理技術について振り返りまとめていく教科書の検討を中心に進めることとする。なお、画像 4 学会研究会については、2014 年度から 4 学会合同の秋季大会が開催されることから、その一部として行われる予定である。従来、画像処理部会が窓口となってきたが、関西での開催となることから関西の秋季大会実行委員会に担当を引き継いでいただき、部会としては担当を終了することとしたい。なお、2014 年の合同研究会の幹事学会は日本画像学会であるので、その点を含めよろしくお願ひしたい。3 回の部会を開催し、メール等も利用して、ICJ2012 での技術ロードマップに対応した画像処理技術のロードマップの検討、画像処理技術について振り返り、まとめていくための教科書の企画検討等を行なうと共に、部会再構築へ向けた委員の絞り込みを行った。
- ・ 画像 4 学会合同研究会については、画像、写真、印刷学会に共通なプリントドエレクトロニクスを取り上げ、「画像形成技術が拓くフレキシブル・プリントドエレクトロニクス」のテーマで 12 月 10 日に開催した。関係するデジタルファブリケーション部会から酒井主査に実行委員として参加いただいた。有料参加者 88 名の 100 名が参加し、関心の高さを感じると共に、一つの学問、産業領域としての広がりや深さを感じる研究会であった。
- ・ 2013 年度については、画像処理技術について振り返り、まとめていく教科書の検討を中心に進めることとし、画像 4 学会については、連合会構想もあるので、そこでの検討に合わせ、研究会の企画開催に向け参画していく。

5) 画像技術用語部会

- ・ 「画像技術用語集」の改訂に向け、現行用語の改訂および新規用語の提案・抽出、それらの編集作業を中心に活動した。
- ・ 「画像技術用語集 Web 版 (一般公開版)」を 2013 年 6 月 1 日に公開。また、2013 年 12 月 27 日には学会ホームページからのリンクを設定し、トップページを更新した。

- ・ 2013 年度中の Web 版（会員様向け）の公開に向け準備を進めている。
 - ・ 2014 年度には一般書籍として紙媒体による出版を予定しており、準備を進めている。
- 6) インクジェット技術部会
- ・ 部会会合を 7 回開催した(2014 年 1 月末時点)。
 - ・ 技術研究会『作る・造る・創るインクジェット』- 夢物語でないデジタルファブリケーション -を DF 部会と合同で 9/20 に発明会館ホールで開催した。インクジェットによる応用を実践されている方々にご講演をいただき、インクジェットの可能性だけでなく、実際の貢献を実感するとともに、直面する課題への取り組み等をお聞きし、今後のインクジェットの DF 応用を改めて考えた。参加人数(講演者、実行委員除く)は 79 名であった。
 - ・ 12/20 に第 6 回の部会会合を兼ね、理想科学工業の理想開発センターを訪問した。最初に部会から「インクジェット技術の進展、オフィスにおけるインクジェット」についてプレゼンを行い、その後理想科学工業の方々とパネルディスカッションを実施した。インクジェット技術部会から 8 名、理想科学工業から約 40 名の参加があり、活発な議論を行うことが出来た。引き続き懇親会でも様々な意見交換をすることが出来、有意義な訪問となった。
 - ・ 合宿研修会として 3 月にインクジェット捺染を導入されている桐生の会社を訪問することを予定している。
 - ・ 2014 年度の技術研究会は 9 月 26 日(金)に発明会館ホールで開催する。
- 7) 電子ペーパー部会
- ・ 2013 年 10 月 22 日(火)、化学会館ホールにて、電子ペーパー部会とデジタルファブリケーション部会共催の技術研究会「電子ペーパー研究会」を開催した。
 - ・ 定例部会 7 回開催。
 - ・ 合宿を 2013 年 9 月 20 日(金)～21 日(土)に実施した。1 日目は、視覚情報工学・認知心理学を研究されている鹿児島大学の犬塚研究室を見学し、視覚特性実験を体験させていただいた。2 日目は部会課題「第二世代の電子ペーパー」に関して討議を実施した。今後部会内で討議を進め 2014 年の研究会で発表の予定である。
- 8) サーマル記録技術部会
- ・ サーマル記録技術部会では、部会にあわせメンバーの所属する企業等の施設見学を兼ねた持ち回りの部会を実施しているが 2013 年は諸事情より計画未実施の年となってしまった。本年は昨年の挽回をはかるべく、合宿部会の実施を計画する。
 - ・ 2013 年度活動計画は 1-3 月で研究会開催予定であったが、準備途中の段階で開催はできていない状況。2014 年の前半の 4-7 月に実施できるよう準備を進める。
 - ・ 次回研究会は「基礎と応用のテーマ」で実施する方向で決定。基礎として、サーマル紙昇華型記録材料、サーマルヘッド、応用として、プリンタブルエレクトロニクスへの展開や、市場では中国国内での熱転写、サーマル記録技術の使われ方等をテーマに講師を決定していく。
- 9) イメージング材料部会
- ・ 当部会は、広く画像技術を支えるイメージング材料、将来のイメージング技術につながる新材料ならびにそれらを用いたイメージングデバイス、システムに関する研究開発動向をフォローし、技術研究会を通じて当学会における材料開発研究の活性化を図ること

を目的としているが、活動が滞っている。2013年度の最優先目標であった主査の交代と部会の立て直しが達成できていないので、引き続き企業委員メンバーの増強と部会の刷新を図り、早急に活動の再起動に努めている。

10) シミュレーション技術部会

- ・ イメージングプロセスに関わるシミュレーション技術の動向探索と啓蒙活動を通して、シミュレーション技術の活性化を目指すことを部会ミッションとして活動を進め、部会を7回開催した。
- ・ 2013年夏の第75回技術講習会(7/12)にてシミュレーション実習を実施。参加者18名。累計138人の実習満足度は95%以上。2014年度の講習会にて本実習は終了予定。
- ・ ICJ2013にてWorkshop-3: "トナー静電付着力の徹底討論"を開催。総勢35名(講演者:竹内先生、田中氏(キヤノン)、スタッフを含む)が参加。質問アンケートをもとに活発な討議が行われましたが、寄せられた質問の大部分を残して時間切れとなったため、第2回目を開催することを約束して閉会。2014年3月20日 第二回開催予定。

11) デジタルファブリケーション部会

- ・ 2013年9月20日に発明会館ホールで開催された日本画像学会技術研究会(通算第117回)
『作る・造る・創るインクジェット』をインクジェット技術部会と合同で開催した。
- ・ 2013年10月22日に化学会館ホールで開催された日本画像学会技術研究会(通算第119回)『電子ペーパーの技術と応用の最新動向』を電子ペーパー部会と合同で開催した。
- ・ 2013年12月12日に早稲田大学 西早稲田キャンパスで開催された画像4学会合同研究会『リアル3D再』に企画運営として参加した。
- ・ DF2013(シアトル)への運営参加
- ・ 2013年9月29日 10月3日に米国シアトルで開催されたIS&T DF2013にてCommitteeとセッション運営に参加した。(Publications Chair:藤井, Session Chairs:小田, 鈴木(幸), 西, 藤井, 梅津, 酒井)

12) 画像感性部会

- ・ ICJ2013で「視覚研究を工学・産業にどう生かすか?」のテーマでワークショップを実施した。視覚分野に関する研究が、十分製品開発に生かされているのか、生かしていくためには何が必要かの課題提起のもと、3件の講演と討議を実施した。23名の参加者があった。
- ・ 画像感性に関する基礎的な知識共有のための勉強会実施は、本年度の重要な目標であったが、未達となっている。

(11) 企画委員会 委員長 酒井真理 (東京大学)

● イメージングカフェの企画および運営

個人会員向け新サービスとして、2011年2月に実施が始まった交流空間『イメージングカフェ』も開始から3年目に入った。本年度は、昨年度好評であった、夏の納涼祭スペシャルと冬の年末スペシャルを含め、東京で9回、大阪で1回、合わせて10回のイメージングカフェを実施した。夏の納涼祭スペシャルでは、ミマキエンジニアリングの池田会長に講師をお願い

し、経営者の視点からインクジェット技術の市場開拓を話していただいた。冬の年末スペシャルでは、昨年同様にこの1年を振り返って、イメージング技術のトピックスを紹介し、今後の展開を議論した。『イメージングカフェ』への参加を機会に、個人会員として入会をした人もあり、個人会員への学会サービスとして定着したといえる。

本年度の『イメージングカフェ』開催要項および開催内容は以下の通りである。

- 会場 恵比寿カルフル，東工大蔵前会館（第21回，第24回，第27回），
パナソニック松心会館（関西第2回）
- 参加費（通常） 1,000円（1ドリンク付き）
- 参加資格 原則として日本画像学会個人会員（賛助会員は含まず）
1週間前に空席がある場合は個人会員外（非学会員も含む）の参加を受け付ける
- 開催内容
 - 第21回 2013年4月19日 インクジェット新時代がきた！
- インクジェットで起業したエンジニアからのメッセージ -
.....山口 修一（マイクロジェット）
 - 第22回 2013年5月17日 “紙”からみるインクジェットとアートの世界
.....大嶋 博（プリンティングディレクター元 PCM 竹尾）
 - 第23回 2013年7月5日 高速枚葉紙印刷における過去からの振り返りと将来に
向けての取組み
~ プリントゴッコからオルフィスの開発と将来に向けて ~
.....奥田 貞直（理想科学）
 - 第24回 2013年8月28日 インクジェットで新技術・新市場を拓く
~ プリンタメーカーに成長を遂げるまでの道程 ~
.....池田 明（ミマキエンジニアリング 会長）
 - 第25回 2013年9月27日 ようやくカメラがヒトの眼になった
~ RGBを越える視覚全色域3バンド撮像技術の研究 ~
.....下平 美文（静岡大学）
 - 第26回 2013年11月8日 革新が進む物流システムと今後必要となる画像とは
~ 画像屋があまり知らなかった物流の世界の最新動向 ~
.....林 健治（イシダ）
 - 第27回 2013年12月11日 イメージング技術 2013 徹底討論
.....北野 賀久（富士ゼロックス）
.....江口 裕俊（リコー）
.....堀田 吉彦（リコー）
.....酒井 真理（東京大学）
 - 第28回 2014年1月31日 医用画像管理システムのクラウド・コンピューティング
への応用
.....藤原浩太（テクマトリックス）
医学画像診断における種々の画像処理とその応用
.....吉川宏起（駒澤大学医療健康科学部）
 - 第29回 2014年3月14日 開催予定

- 関西イメージングカフェ
第2回 2013年7月19日 電子写真と共に35年
～ひたすら写真と呼べる画質を目指して～
……………伊藤 昇(元 コニカミノルタ)
- 開催結果
第21回から第27回および関西第2回までの合計8回の開催で、延べ会員103名、非会員54名の参加者を得た(講師・企画委員を含まず)。
- ICJ2013でのワークショップの企画
企画委員会としてICJ2013のワークショップのテーマの取りまとめを担当した。

(12) コンファレンス委員会 委員長 阿部隆夫(信州大学)

- ・コンファレンス委員会は次の構成で活動した。委員長：阿部隆夫(信州大)、委員：大西 勝(ミマキエンジニアリング)、小林範久(千葉大)、竹内達夫(キヤノン)、中山喜萬(大阪大)、山崎 弘(コニカミノルタ)。
- ・2013年6月12日(水)、13日(木)、14日(金)の3日間、東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールにおいて“Imaging Conference JAPAN 2013”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第111回)]を開催した。本会では(株)リコーが幹事会社として運営に当たった。実行委員長は村山久夫氏、同副委員長は長山智男氏および一宮孝司氏。
- ・2014年6月11日(水)、12日(木)、13日(金)の3日間、東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールで開催する予定の“Imaging Conference JAPAN 2014”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第113回)]はコニカミノルタ(株)に運営の幹事をお願いした。実行委員会が組織され、開催に向けた準備を遂行中である(実行委員長：市原美幸氏、同副委員長：服部好弘氏および橋本清文氏)。
- ・2015年度の年次大会は、日本画像学会、日本写真学会、画像電子学会、映像情報メディア学会、日本印刷学会の5学会共催の国際会議、すなわち、ICAI(The 1st International Conference on Advanced Imaging)として行う予定で準備中。会期は2015年6月17日(水)、18日(木)、19日(金)。会場は一橋大学一橋講堂(学術総合センター)。日本画像学会が主担当のトラック運営には、キヤノン(株)に中心的役割(通常年のICJの運営幹事会社に相当)で当たっていただくことをお願いし、受けていただいた。なお、ICAIの準備に関して、前記5学会参加の企画推進委員会(委員長：日本画像学会コンファレンス委員長・阿部隆夫、事務局：日本画像学会参与・深瀬康司)を正式に発足させ、スコープ、トラック構成、開催支援金獲得方策、海外招聘研究者候補の検討などを行った。ICAI組織委員長は画像学会会長(半那純一)が務める。
- ・ICJ(年次大会)について実施内容等を検討・決定するための常設の委員会を設置することが理事会で決められたことに基づき、コンファレンス委員会が中心となり検討し、企画委員会を発足させた。ICJは本会の最も重要な研究イベントであることを考慮し、委員長は日本画像学会会長とし、技術委員長やコンファレンス委員長などの年次大会遂行関係委員会委員長、技術委員会の各部会中心的活動者、当該年および次年の運営幹事会社(実行委員会副委員長等)をメンバーとする。また、必要に応じて有用な人材をメンバーに加える。

(13) 広報委員会 委員長 長山智男 (リコー)

- ・ 広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ（URL：<http://www.isj-imaging.org/isj.html>）の継続的な管理運営を行った。1997年に開設して以来、580,000件を超えるアクセス数となっている（2014年2月現在）。
- ・ 学会事務局の運営業務IT化活動については、年次大会の講演登録、予稿原稿投稿や事前参加登録処理等の各種運営業務のIT化を各種イベントに展開した。
- ・ 本年度より新たな広報委員会のミッションとして加えた「学会活性化」については、会員の個人ページの積極利用を軸に各種施策を展開を考案したものの、会員サービス提供の具現化には至っておらず、次年度も継続が必要な重要課題である。

(14) 選奨委員会 委員長 内藤裕義 (大阪府立大学)

- ・ 選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

(15) 事業委員会 委員長 大橋豊史 (三菱化学)

- ・ 頒布品として標準キャリアは例年並みが見込まれるがテストチャートの頒布数は激減しており学会財政上に影響が出ている。
- ・ 標準キャリア（担当：トナー技術部会）に関しては、新規標準品頒布はなく、頒布累計数ではN-01が全体の54%、P-01が全体の27%を占めており前年度と同様である。
- ・ テストチャート（担当：画像評価技術部会）に関しては、新規学会チャート頒布はなく、従来のテストチャートの今年度頒布数では前年度の数%と激減しており、これが一時的なものか見極める必要がある。
- ・ 2008年6月に刊行した「デジタルプリンタ技術」シリーズ4巻ではケミカルトナーが2刷となった。
4巻の累計の実売数と市場在庫はつぎのとおりである。
（提供：東京電機大学出版局 2013年12月現在）

電子写真	4刷	3321部
電子ペーパー	1刷	1756部
インクジェット	4刷	3277部
ケミカルトナー	2刷	1869部
- ・ 「デジタルプリンタ技術」シリーズの続刊として刊行を予定していた「インクジェット応用」は次年度の年次大会に刊行予定である。
- ・ 「技術用語集改訂版」は改訂作業を終え12月末に一般向けがWeb公開され、冊子版を次年度に刊行予定である。

[協賛依頼]

2013年

- ・ 6/3 画像電子学会 Advanced Imaging Seminar 2013「ポストテレビ～未来の映像プラットフォーム～」 "早稲田大学 西早稲田キャンパス" 画像電子学会
- ・ 6/20-21 第21回品質工学研究発表会「品質工学の果たすべき役割を探る」
"きゅりあん" 品質工学会
- ・ 7/2 色材分散講座 - 分散の基礎と応用 -
"大阪科学技術センター" 色材協会関西支部
- ・ 7/22 2013年度第1回P&I研究会シンポジウム「環境・エネルギーに貢献する印刷技術」 "トッパン・フォームズビル" 日本印刷学会
- ・ 8/23 色材協会関係コロイド化学セミナー - 界面活性剤の入門から最前線の研究まで - "日本大学理学部駿河台キャンパス" 色材協会
- ・ 8/30 2013印刷・情報記録・表示シンポジウム「フレキシブルデバイス用材料の現状と課題を語る」 "産業技術総合研究所" 高分子学会
- ・ 9/10 第37回静電気学会全国大会 "千葉大学教育学部" 静電気学会
- ・ 9/29-10/3 NIP29,DF2013 "Seattle, Washington, USA" IS&T
- ・ 10/17-19 高速度イメージングとフォトンクスに関する総合シンポジウム
"ホテルサンルート室蘭" 「高速度イメージングと
フォトンクスに関する総合シンポジウム2013」組織委員会
- ・ 10/23-25 FPD International 2013 "パシフィコ横浜" 日経BP社
- ・ 10/24-25 色材協会創立85周年記念会議 85th JSCM Anniversary Conference
"Toward Colour and Coatings in the Next Generation"
"一橋記念講堂" 日本工学会、日本塗料工業会
- ・ 10/28 色材講演会「色材領域におけるナノテクノロジー」
"大阪科学技術センター" 色材協会関西支部
- ・ 10/31-11/1 平成25年度画像保存セミナー "東京都写真美術館ホール" 日本写真学会
- ・ 11/1 第196回ゴム技術シンポジウム「ゴム分析の基礎」
"東京電業会館 地下ホール" 日本ゴム協会
- ・ 11/13 第38回顔料物性講座 "東京塗料会館" 色材協会関東支部
- ・ 11/19-20 第10回色材IT講座「新たな展開を見せるインクジェット技術」
"日本大学理工学部 CST ホール" 色材協会
- ・ 11/21 第21回カメラ技術セミナー
"国立オリンピック記念青少年総合センター" 日本写真学会
- ・ 12/4-6 IDW '13 "札幌コンベンションセンター" 映像情報メディア学会SID日本支部
- ・ 12/17 2013印刷・情報記録・表示研究会基礎講座
「基礎から学ぶ有機エレクトロニクス材料」"産業技術総合研究所" 高分子学会
- ・ 12/19-20 第22回微粒化シンポジウム "長崎大学 良順会館" 日本液体微粒化学会

2014年

- ・ 2/5-7 page2014「始動！コミュニケーション・ファクトリ」
"サンシャインシティ" 日本印刷技術協会
- ・ 3/13-14 シンポジウム「モバイル'14」
"立命館大学 びわこくさいキャンパス" モバイル学会

(16) 国際交流委員会 委員長 半那純一 (東京工業大学)

- ・ 米国 画像学会主催、本学会共催の NIP29 International Conference on Digital Printing Technologies (NIP29) Digital Fabrication (DF2013) (2013年9月29日～10月3日、米国 Washington 州、Seattle) の開催、および、NIP/DF 会議を通じた本学と IS&T との交流に協力した。
- ・ アジア諸国の画像関連学会の活動状況の調査と相互協、国際交流のあり方について検討を進めている。

(17) 関西委員会 委員長 北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

関西シンポジウム 2013

実行委員長：岩田将和，実行副委員長：水畑浩司

2013年5月17日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地)にて、2013年度関西シンポジウムが開催されました。「画像技術のイノベーション - どこまで広がるイメージングワールド - 」というテーマのもと、イメージング技術を活用して一般事務機器分野とは異なった用途での、技術展開事例について各社よりご講演頂き、後半では講師の皆様がパネラーを務め、会場からの質問を交えて上記のテーマについて議論しました。

再生医療、加飾成型、プロダクションプリント、HP-Indigoを活用したラベルパッケージの営業戦略、インクジェットによる捺染、3Dプリンターと幅広い分野から、技術から企画、営業のトピックスについてご講演を頂きました。特に、3Dプリンターは米国の国家戦略として位置付けるなど特に注目を浴びていますので、会場には武藤工業さまのご協力を得て、プリンターのデモと、成型サンプル展示をして頂き、皆様の関心を集めていました。パネルディスカッションでは新規事業分野開拓当時のご苦労話や、今後の技術革新の方向性、お客様へ提供する価値の見極め、講師の皆様の夢などについて、有意義な議論がありました(参加者名54名:会員49名、非会員5名)。

【技術発表テーマと講師の皆様】

- ・ 印刷技術のメディカル分野への応用 - 再生医療を例として - 土屋勝則(大日本印刷)
- ・ Nissha IMD(成形同時転写システム) 伊藤忠広(日本写真印刷)
- ・ デジタル印刷機としての電子写真技術の進歩と将来 服部好弘(コニカミノルタ)
- ・ デジタル印刷を活用したラベルパッケージイノベーション 山田大策(日本HP)
- ・ エプソンのデジタル捺染への取り組み 片倉孝浩(セイコ-エプソン)
- ・ 3Dプリンターをめぐるマーケットとビジネスの変貌とトレンド 小林 広美(スリーディー・システムズ・ジャパン)

【パネルディスカッション】

座長：川上哲哉（京セラ） パネラー：講演者のみなさん

「画像技術のイノベーション - どこまで広がるイメージングワールド - 」

第 76 回 技術 講習 会

実行委員長：浜田敏正，実行副委員長：夏原敏哉

2013 年 11 月 21 日(木)にハートピア京都(京都 丸太町)において、日本画像学会関西委員会の企画・運営による技術講習会を開催いたしました。今回は、「最新の電子写真に関わる環境・省エネ技術の基礎と課題解決」というテーマのもと、電子写真の環境・省エネ技術の基礎に絞り、LCA 設計の総論から、トナーや感光体開発、定着プロセス、待機電力低減の設計の解説と、表面分析機器メーカーの技術展示も頂き、有意義な議論ができました。しかしながら、関東で 12 月に粗同じテーマでシンポジウムが開催されたことも影響し、受講者数は低調でした。アンケートを分析すると良かったが半数を超え、概ねご満足頂けたようで、次回聞きたいテーマとしては、材料関連と市場情報の回答が多く、来年のテーマ選定の参考に致します。

また、昨年同様、測定機器の展示も行い参加者、メーカーともに貴重な情報交換の場を提供しました。特に測定機器の時間をプログラムに設定したことから、殆どの参加者が展示コーナーに足を運ばれたようで、メーカーさまからも非常に有意義だったとの、お声がありました。参加された方々には、今回の技術講習会の内容を業務に活かし益々ご活躍されることを願っております。(参加者名 30 名:会員 27 名、非会員 3 名)。

【技術発表テーマと講師の皆様】

- ・持続可能な社会に向けた製品ライフサイクル設計 大阪大学 梅田 靖
- ・カールソンの実験から近年に至るトナー材料の変遷 三洋化成工業株式会社 西田 正春
- ・トナーとは？ コニカミノルタ株式会社 山崎 弘
- ・環境負荷低減に配慮した電子写真感光体開発/SPAN> キヤノン株式会社 丸山 晶夫
- ・計測機器展示「表面分析」

オリンパス(株)、トレックジャパン(株)、日本電子(株)((株)菱光社)、日立ハイテクノロジーズ(株)

- ・定着プロセスの基本および省エネ定着技術の動向について 株式会社リコー 蜂須賀 利治
- ・待機電力低減と省トナー制御による環境配慮設計 村田機械株式会社 朝倉 正則

Imaging Conference JAPAN 2013 Fall Meeting (第 112 回 研究 討論 会)

実行委員長：浜田敏正，実行副委員長：夏原敏哉

2013 年 11 月 22 日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375 番地)にて、Imaging Conference Japan 2013 Fall Meeting を開催した。技術賞受賞記念講演 3 件、一般口頭発表 7 件、ポスターセッション 9 件の発表があった。研究討論会への参加者は 59 名(前年 61 名)であった。

本年も編集委員の投票による編集委員長賞、参加者と実行委員の投票によるベストポスター賞を設定し下記の方が受賞された。また、前日の技術講習会で展示頂いた表面分析機器メーカーの方を囲んで計測機器への要望を議論するワークショップを開催し、メーカー、参加者ともに好評を博した。

本年は印刷学会、写真学会と協力し、夫々の秋季研究討論会に参加された聴講者は、無料で相互の研究討論会に参加可能としましたが、Imaging Conference Japan2013Fallに参加された方は1名

のみでした。アンケートを参照すると別の日に再度会場に運ぶのは大変、あるいは日にちが離れていて活用しにくいのご意見がありました。これらを参考にし、来年は画像関連学会が同じ会場で同日に開催することを検討致します。今後も、各種施策を実施し、活発な議論の場を提供して参ります。(参加者数59名:会員44名、学生15名)。

編集委員長賞 : 塗布型有機電界効果トランジスタのホッピング輸送

岡田 純¹、永瀬 隆¹、小林 隆史¹、瀧宮 和男²、池田 征明³、内藤 裕義¹

(¹大阪府立大学、²広島大学、³日本化薬株式会社)

ベストポスター賞: 回転スクリーンを用いた体積型立体表示の原理実験

関谷 陽一、藤川 知栄美、面谷 信(東海大学)。

プログラムは本稿後半に記載(付録2)。

(18) 財務委員会報告 委員長 辰巳節次 (富士フイルム)

- ・ 2012 年度収支決算および 2013 年度予算の作成を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会の決議を経て、総会にて 2012 年度決算および 2013 年度予算の承認を得た。
- ・ 2013 年度予算は、次のような方針で立案した。通常収支として収支均衡を目指す。収入/支出とも直近数年の実績を考慮して決める。理事会等会議費用支出を削減する。通常外支出として ICAI2015 国際学会準備費、昨年度見送られた新規出版物作成費、用語集改訂費を計上する。
- ・ 会計処理規程に則って 2013 年度半期決算を行い、会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会に報告し承認を得た。
- ・ 2013 年度末の状況としては、収入面では試験標準品頒布収入の大幅減、研究会参加費収入の減少、支出面では新規出版/用語集改訂の見送り、試験標準品作成費の減少、研討・研究会開催費の減少があり、当初予算に対しては約 1 万円の赤字、事業活動収支絶対額は約 108 万円赤字となった。

(19) ビジョン委員会 委員長 竹内達夫 (キヤノン)

2013 年総会において「日本画像学会ビジョン 55」の最終発表を行い、全会員に対して今後の日本画像学会が進むべき技術の方向性ならびに運営刷新についての考え方を示した。本委員会は 2010 年役員研修会において臨時組織としてその活動を開始し、途中から池田理事、佐野理事、神野理事に委員長が加わる形で議論を行い、骨子を策定したものである。ビジョン委員会はこの総会発表を持って委員会としての責務を終了し、2013 年理事研修会において組織化された革新委員会にビジョン実現の為の任を引き継ぐこととした。

(20) 特別講演会

2014 年 3 月 11 日 評議員会の後、株式会社イシダの林 健治氏による「革新が進む小売での物流システムと今後必要となる画像とは ~ 画像屋があまり知らなかった物流の世界の最新動向 ~」の特別講演会を開催した。

(21) 技術研究会

2013年9月20日(金) 発明会館ホール(東京都港区虎ノ門2-9-14)にてインクジェット技術部会, DF部会合同企画の2013年度第1回日本画像学会技術研究会(通算第117回)を開催した。参加者79名(会員:62, 非会員:14, 学生:3)。

テーマ『作る・造る・創るインクジェット』 - 夢物語でないデジタルファブルケーション -
講演テーマ, 講演者は以下のとおり。

[Overview]

1. インクジェット技術を応用したものづくりの現状と課題:山口 修一(マイクロジェット)

[Bio & Meddical]

2. 全工程インクジェット印刷で創る紙デバイス 健康診断チップと細胞培養システム
: 江前 敏晴(筑波大学)

3. インクジェットプリンターによる人工骨の作製 : 鄭 雄一(東京大学)

[Printed electronics]

4. 高機能デバイスの低コスト製造を実現するプリンタブル・プロセス量産技術
: 中村 秀男(日立製作所インフラシステム社)

5. 印刷工法を用いたフレキシブルエレクトロニクス:尾崎 和行(日本メクトロン)

[Printer & Material]

6. スーパーインクジェット -超微量液滴がもたらす世界- :村田 和広(SIJ テクノロジ)

7. インクジェット用インクの用途展開:佐藤 弘幸(JNC)

2013年10月11日(金) 虎の門『発明会館』(東京都港区虎の門2-9-14)において、トナー技術部会企画で2013年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第118回)を開催した。参加者は82名(講師、委員、報道は除外)で、昨年とほぼ同等であった。

テーマ『詳しく知りたい! トナー物性、トナー市場の今、そして将来技術』

【プログラム】

走査型プローブ顕微鏡(SPM)及びSEMの基礎と物性評価技術:東陽テクニカ 相蘇 亨
標準キャリア種に応じた粉体の表面電位変化とSPM表面観察:トナー技術部会 多田達也
トナー内部のモルフォロジー解析および表面物性分布評価:東レリサーチセンター日下田 成
キャリアの摩擦帯電制御と長寿命化を如何に達成したか:(元)コニカミノルタ 伊藤 昇
パッセン則でみる粉体の帯電特性:創価大学 松山 達
トナー技術開発は市場ニーズにどう向き合っているのか:データサプライ 山本 幸男
ナノ多孔質構造を持つ粉体とその応用技術:LIXIL 井須 紀文

2013年10月22日(火), 化学会館ホールにて, 電子ペーパー部会とデジタルファブリケーション部会共催の技術研究会「電子ペーパー研究会」を開催した。今回の研究会では, 『電子ペーパーの技術と応用の最新動向』と題して, 電子ペーパーの応用の広がり, 電子ペーパー表示の最新技術, 電子ペーパーに活用可能なバックプレーンの作製技術について以下の6件の講演を行った。また, 参加者と直接議論できる場として, 電子ペーパーの最新の製品と技術の展示の時間を設定した。参加者は58名(会員・維持会員22名, 非会員17名, 学生2名, 講師6名(うち実行委員1名), 展示4名, 実行委員8名)だった。

【講演】

- 「電子ペーパーの現実とその活路」 東海大学 前田 秀一
「電子ペーパーサイネージ」 凸版印刷 檀上 英利
「電子書籍マーケットの可能性」 ブックライブ 淡野 正
「動画表示も可能な新しいメモリー性液晶技術」 工学院大学 高橋 泰樹
「電子ペーパーのカラー化に向けた銀析出型エレクトロクロミズム」 千葉大学 坪井 彩子, 小林 範久
「酸化半導体を用いた全印刷薄膜トランジスタの開発」 リコー 松本 真二

【展示】

凸版印刷, ブックライブ, 丸文, イシダ, 東海大学の5社/団体

2013年12月12日(木)に早稲田大学 西早稲田キャンパスにおいて四学会((一社)画像電子学会, (一社)日本画像学会, (一社)日本印刷学会, (一社)日本写真学会,)共催の「リアル3D再現 - 3Dプリンティング, 3D再現のための入力から出力までの技術動向と応用 - 」をテーマとした研究会を開催した。

画像4学会合同研究会の詳細は(24)の項に記載。

(22) シンポジウム

2013年12月06日(金) 発明会館(東京都港区虎ノ門2-9-14)にて技術委員会電子写真技術部会企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】「環境負荷低減技術」

～環境のためにできること、最新技術、今後進むべき方向は?～

【参加者】78名(会員52名、非会員8名、学生0名、報道1名、講師7名、委員10名)

【講演内容】

1. バイオベースインダストリーを牽引するバイオマスプラスチックの開発の動向
京都工芸繊維大学 木村良晴
2. バイオマス材料応用編 ～バイオマス材料の表と裏、成功例と失敗例～
三菱化学科学技術研究センター 加藤 聡
3. 難リサイクル古紙再生技術
大王製紙 明石 将
4. 異次元の環境性能 ～LOOPSのコンセプトと構成技術～ 東芝テック 吉田 稔
5. MPC6003シリーズにおける環境配慮設計 ～省エネ省資源と高生産性の両立～
リコー 石橋幹生
6. オフィス機器における環境負荷低減技術 ～超微粒子(UFP)生成機構とその対策～
工学院大学 並木則和
7. 感性を考慮した快音化とサウンドデザイン
中央大学 戸井武司

関西シンポジウムについては(17)関西委員会の項に記載

第75回技術講習会

・2013年7月11日(木), 12日(金)の両日, 学術総合センター (東京千代田区)にて, 第75回技術講習会を開催した。今回はサブタイトルを「第一線で活躍する講師陣による画像技術の基礎講座」とし, 新たに「基礎教育講座」を新設, これまで以上に基礎重視に趣をおき, これから画像技術に取り組む若手技術者に対する成長機会の場を提供することを目的とし, 各方面の第一線で活躍されている26名の講師をお招きして講演を頂いた。

1日目の第1会場では, 例年同様「総論及び入門講習」を設け, これから画像技術に取り組まれる方へ基礎から分かり易く解説することで, 大変分かり易く有意義との評価を頂くことができた。また, 第2会場では「画像及びプリンティング技術講習」と「シミュレーション実習講習」も合わせて実施した。3会場を使った初日は参加される方の多様な要望に応えることのできる内容となった。

2日目は分野を「電子写真に関する技術講習」と新たに設けた「基礎教育講座」に分け, 最新トピックスの詳細な解説とともに, 幅広い電子写真関連の基盤技術, 基礎技術習得に役立つ内容となった。

会場内スペースを使った展示会は前年度の4社から7社(富士フィルム株式会社様, 株式会社フォトロン様, コニカミルタ, オプティクス株式会社様, トレックジャパン株式会社様の常連会社様に加え, 新規にキャンマーケティングジャパン株式会社様, 株式会社ルビテック様, 株式会社電通国際情報サービス様)のご参加を頂いた。

有料参加者数は111名(会員・維持会員84名, 非会員21名, 学生6名)で, 前年度より19名の増加となった。20代の参加者が全体の64%と過去最高となり, 若手の人材育成に十分活用されていることが伺える。アンケートでも「基礎知識の習得」目的が91%と高く, 裏付けされている。また, 参加者の経験年数は1年未満をピークに3年未満までで58%と大半を占め, 若手の知識習得や教育に大きく貢献できていることが伺える。シミュレーション実習講習は, 18名の参加をいただき, 実習満足度94%以上, 今回受講していない参加者の46%(19名)が来年の受講を希望していた。

2014年度は, さらに基礎知識習得に重きをおき, 若手技術者の専門技術習得の場ともなれるような内容, 企画を検討する必要していく。

・1日目 第1会場(一橋講堂) 総論 及び 入門講習

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 電子写真プロセス基礎技術入門 | 北野 賀久様 (富士ゼロックス) |
| 2. 電子写真における技術革新の歩み | 木村 正利様 (富士ゼロックス) |
| 3. インクジェット技術入門 | 江口 裕俊様 (リコー) |
| 4. 商用高速インクジェット技術 | 藤井 雅彦様 (富士ゼロックス) |
| 5. 画像機器における環境配慮 | 酒井 幸広様 (コニカミノルタ) |

・1日目 第2会場(中会議室2・3・4)) 画像 及び プリンティング技術講習

- | | |
|--|--------------------|
| 6. 感熱記録技術の基礎と最新技術動向 | 寺嶋 尚久様 (富士フィルム) |
| 7. 有機/金属ハイブリッドポリマーを用いたエレクトロクロミック表示デバイス | 樋口 昌芳様 (物質・材量研究機構) |
| 8. 展示会社によるプレゼンテーション | |
| 9. 静電気力顕微鏡の紹介 | 東尾 順平様 (トレックジャパン) |
| 10. 高速度カメラの導入事例のご紹介 | 小泉 拓 様 (フォトロン) |

11. 視覚と画像 金子 寛彦様 (東工大)
 12. Production/GA 機における画質設計 浅野 和夫様 (富士ゼロックス)

・1日目 第3会場(中会議室1) シミュレーション実演実習

13. イントロダクション 川本 広行様 (早稲田大学)
 14. 電界計算理論講義 中山 信行様 (富士ゼロックス)
 15. スプレッドシートによるお手軽電界計算(定常問題) 仲野 正雄様 (キヤノン)
 16. 熱伝導計算理論講義 中山 信行様 (富士ゼロックス)
 17. 有限差分法による定着プロセスの熱伝導計算(非定常問題)
 伊藤 朋之様 (富士ゼロックス)

・2日目 第1会場(一橋講堂) 電子写真に関する技術講習

18. 電子写真用現像剤基礎知識 高木 慎平様 (富士ゼロックス)
 19. 電子写真感光体の基礎 - 動作原理と各層の機能紹介 -
 大垣 晴信様 (キヤノン)
 20. 転写プロセスの基礎 澁谷 暁 様 (コニカミノルタ)
 21. 定着プロセスの基本および省エネ定着技術の動向について
 蜂須賀 利治様 (リコー)
 22. 電子写真プロセスの画像安定化技術 山崎 直哉様 (富士ゼロックス)
 23. 紙搬送技術概論 久住 正 様 (リコー)

・2日目 第2会場(中会議室2・3・4) 基礎教育講座

24. レオロジーの基礎と画像技術への応用 大坪 泰文様 (千葉大)
 25. 摩擦帯電機構を理解するための基礎 星野 勝義様 (千葉大)
 26. 用紙搬送に関わる設計者が陥りやすい勘違いと実際
 山浦 弘 様 (東工大)
 27. 紙の基本特性とその製造方法 近藤 裕介様 (日本製紙)

技術講習会実行委員会

委員長：黒須 久雄(リコー)

委員：山崎 弘(コニカミノルタビジネステクノロジーズ)、水野 恒雄(水野国際特許事務所)、萬道 律雄(王子製紙)、吉澤 孝一(セイコーエプソン)、吉田 稔(東芝テック)、和田 光央(三菱化学)、笠間 稔(富士ゼロックス)、稲葉 繁(富士ゼロックス)、伊東 展之(キヤノン)

事業委員長：大橋 豊史(三菱化学) 事業委員：上原 康博(富士ゼロックス)

電子写真シミュレーション実演講習は、シミュレーション技術部会(門脇主査：リコー)との共同開催

第76回技術講習会は(17)関西支部の項に記載。

(24) 画像4学会合同研究会

2013年12月12日(木)に早稲田大学 西早稲田キャンパスにおいて四学会((一社)画像電子学会,(一社)日本画像学会,(一社)日本印刷学会,(一社)日本写真学会,)共催の「リアル 3D 再現 - 3D プリンティング,3D 再現のための入力から出力までの技術動向と応用 - 」をテーマとした研究会を開催した。

有料参加者 64 名(会員 47 名,非会員 13 名,学生 4 名),講師,報道,幹事を含めて 81 名。

テーマ 「リアル 3D 再現

- 3D プリンティング,3D 再現のための入力から出力までの技術動向と応用 - 」

1. 3D 入力総説 - 画像を用いた 3 次元形状計測 - 大谷 幸利(宇都宮大学)
2. 3D 出力総説 - 3 次元プリンティング技術 - 相馬 達也(3D-GAN)
3D プリンター,その基本を知る
3. CG 分野における 3D プリンティング関連の研究動向 齋藤 隆文(東京農工大学)
4. 3DCG による新しい絵画の観賞体験 奥窪 宏太(凸版印刷)
- 『ViewPaint Vol.1 フェルメール「牛乳を注ぐ女」』制作紹介 -
5. プロジェクションマッピングにおける 3D プリンタの利用 町田 聡(アンビエントメディア)
6. パーソナルユースにおける 3D プリンティング 相馬 達也(3D-GAN)
- 可能性と現実と,何から変わるべきなのか? -

(25) 2013年度 学会概要、役員名簿、各委員会名簿

学会概要

創立年月 1958年6月30日

事務局 東京都中野区本町2丁目9番地5号(東京工芸大学内)

会員数 個人会員 954名 (2013年度入会者数 148名、退会者数 88名)

維持会員 67社 (2013年度入会数 1社、退会数 5社)

2014年3月末現在

2013年度学会役員

会長

半那純一 (東京工業大学)

副会長

面谷 信 (東海大学)

竹内達夫 (キヤノン)

理事

阿部隆夫 (信州大学)

佐藤利文 (東京工芸大学)

監事

大倉浩和 (三菱製紙)

佐野隆之 (巴川製紙所)

中島一浩 (キヤノン)

大西 勝 (ミマキエンジニアリング)

神野文夫 (王子ネピア)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

大橋豊史 (三菱化学)

辰巳節次 (富士フイルム)

幹事

笠井利博 (東芝テック)

内藤裕義 (大阪府立大学)

前田秀一 (東海大学)

川本広行 (早稲田大学)

中居仁司 (ブラザー工業)

三矢輝章 (リコー)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

中山信行 (富士ゼロックス)

北久保 茂 (日本工業大学)

中山喜萬 (大阪大学)

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

長山智男 (リコー)

小林範久 (千葉大学)

西野俊夫 (シャープ)

近藤浩人 (京セラドキュメントソリューションズ)

橋本清文 (コニカミノルタ)

酒井真理 (東京大学)

山崎 弘 (コニカミノルタ)

顧問

窪田 啓次郎

小門 宏

高橋恭介 (東海大学)

坂田俊文 (東海大学)

田嶋紀雄 (コニカミノルタホールディングス)

横山正明 (大阪大学)

北村孝司 (千葉大学)

平倉浩治 (HiRAK)

高橋 通 (キヤノン)

評議員

(社名五十音順)

秋山 悟 (アイメックス)

岩田将和 (三洋化成工業)

石崎雅也 (日本製紙)

森下浩延 (出光興産)

油井勇飛 (シャープ)

萩野明秀 (日本ゼオン)

山田 公哉 (岩崎通信機)

小野 博 (富士ゼロックスマニファクチャリング)

小林弘道 (パウダーテック)

田口哲也 (エステー産業)

田中雅和 (住友ゴム工業)

西嶋皓志 (パナソニックシステムネットワークス)

清水良浩 (王子ホールディングス)

金谷美春 (セイコーエプソン)

見方康範 (バンドー化学)

石原 徹 (沖データ)

秋田寛哉 (綜研化学)

上田彦二 (藤倉化成)

中島則夫 (沖デジタルイメージング)

原田 修 (大日精化工業)

山内和海 (富士ゼロックス)

山手 修 (オリエント化学工業)

武衛弘之 (DIC)

寺崎成史 (富士電機)

秋山孝治 (花王)

研究開発センター(大日本印刷)

依田 章 (富士フイルム)

山崎修一 (カシオ計算機)

津田雅也 (大日本スクリーン製造)

駒崎岳夫 (富士フイルムイメージングシステムズ)

太田譲二 (桂川電機)

小林 透 (高砂香料工業)

円道博毅 (富士薬品工業)

平賀祐二 (キーテック)

大藤正浩 (中央合成化学)

各務克巳 (ブラザー工業)

小林克彰	(キヤノン)	百武勇人	(電子化工)	加賀紀彦	(ブリヂストン)
石垣 亨	(キヤノン化成)	高橋 潤	(東海ゴム工業)	笠原 郁	(保土ヶ谷化学工業)
石永博之	(キヤノンファインテック)	藤尾 昇	(東京機械製作所)	高村寛昭	(三菱化学)
浅井 保	(京セラ)	笠井利博	(東芝テック)	小池直正	(三菱製紙)
巖島圭司	(京セラドキュメントソリューションズ)	佐藤伸一	(東洋インキ)	大西 勝	(ミマキエンジニアリング)
吉田 崇	((独)国立印刷局研究所)	稲垣 潤	(東レエンジニアリング)	吉野裕司	(武藤工業)
木田修二	(コニカミノルタ)	事務機器審査長 (特許庁)		西田昭憲	(村田機械)
松野尚司	(コニカミノルタ)	安藤富雄	(凸版印刷)	鈴木 一	(山梨電子工業)
浅井真吾	(コニカミノルタ)	越村 淳	(巴川製紙所)	村山 久夫	(リコー)
風見 豊	(サカタインクス)	上原利夫	(トレック・ジャパン)	Motor Kao	(SOLIDLITE)
加治屋浩	(サトーホールディングス)	田中章裕	(内外カーボンインキ)		
佐藤昌宏	(サムスン日本研究所)	江間秋彦	(日清製粉グループ)		

(平成26年3月末現在の登録名簿にて記載)

編集委員会

委員長

前田 秀一 (東海大学)

副委員長

中山信行 (富士ゼロックス)

編集幹事

鈴木弘治 (元リコー)

編集副幹事

中村一希 (千葉大学)

委員

池田光弘 (三菱製紙)

竹内達夫 (キヤノン)

長山智男 (リコー)

井嶋喜明 (パナソニックシステムネットワークス)

龍田岳一 (富士フイルム)

西野俊夫 (シャープ)

北久保 茂 (日本工業大学)

堤 眞洋 (京セラドキュメントソリューションズ)

美才治隆 (リコー)

木村正利 (富士ゼロックス)

内藤裕義 (大阪府立大学)

山口智貴 (ユーテック)

黒沢俊晴 (元松下電器)

永戸一志 (東芝)

山崎 弘 (コニカミノルタ)

技術委員会

委員長

面谷 信 (東海大学)

副委員長

木村正利 (富士ゼロックス)

画像評価技術部会

主査

伊藤哲也 (ビジネス機械・情報システム産業協会)

委員

芦崎浩二 (ソニー)

今河 進 (リコー)

曾根拓郎 (リコー)

一谷修司 (コニカミノルタ)

駒崎岳夫 (富士フイルムイメージングシステムズ)

山田英治 (富士フイルムイメージングプロテック)

井出 収 (富士ゼロックス)

斎藤 恵 (キヤノン)

電子写真技術部会

主査

永瀬幸雄 (キヤノン)

委員

笠井利博 (東芝テック)

小森智裕 (沖データ)

島田知幸 (リコー)

高山 暁 (東芝)

中村博史 (富士ゼロックス)

服部好弘 (コニカミルタ)

藤井章照 (三菱化学)

松代博之 (リコー)

校條 健 (キヤノン)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

トナー技術部会

主査

多田達也 (キヤノン)

委員

上原利夫 (トレック・ジャパン)

太田英樹 (京セラドキュメントソリューションズ)

木村正利 (富士ゼロックス)

久保貴史 (花王)

小林弘道 (パウダーテック)

沢山 昇 (リコー)

鈴木千秋 (富士ゼロックス)

原田 大輔 (クラリアント・ジャパン)

星野勝義 (千葉大学)

星野坦之 (東京電機大学)

画像処理技術部会

主査

松木 眞 (元NTTクオリス)

委員

阿部淑人 (新潟県工業技術総合研究所)

石井 昭 (富士ゼロックス)

大久保 宏美 (リコー)

角谷繁明 (セイコーエプソン)

小寺宏暉 (千葉大学)

関沢秀和 (画像電子学会)

蒔田 剛 (キヤノン)

画像技術用語部会

主査

北久保茂 (日本工業大学)

委員

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

坂谷一臣 (コニカミルタ)

酒井真理 (東京大学)

正道寺 勉 (日本工業大学)

多田達也 (キヤノン)

西村克彦 (キヤノン)

野田明彦 (富士ゼロックス)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

星野坦之 (東京電機大学)

堀田吉彦 (リコー)

谷中一寿 (神奈川工科大学)

インクジェット技術部会

主査

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

委員

江口裕俊 (リコー)

岡田真一 (DIC)

奥田貞直 (理想科学工業)

酒井真理 (東京大学)

高田雅之 (ブラザー工業)

竹本清彦 (シャチハタ)

朝武 敦 (コニカミルタ)

中島一浩 (キヤノン)

名越心昇 (三菱製紙)

渡邊峻介 (セイコーエプソン)

電子ペーパー部会

主査

堀田吉彦 (リコー)

委員

雨宮 功 (東芝)

植田秀昭 (ダイソー)

面谷 信 (東海大学)

川瀬健夫 (日本触媒)

北村孝司 (千葉大学)

小林範久 (千葉大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

鈴木 明 (千葉大学)

都甲康夫 (スタンレー電気)

前田秀一 (東海大学)

森川 尚 (富士ゼロックス)

八代 徹 (リコー)

サーマル記録技術部会

主査

寺尾博年 (アルプス電気)

委員

朝倉太郎 (東芝ホクト電子)

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

大嶋克之 (大日本印刷)

寺嶋尚久 (富士フイルム)

中西雅寿 (ローム)

藤井豊子 (ソニー)

眞島 修 (マジマ研究所)

渡邊和宏 (京セラ)

イメージング材料部会

主査

横山正明 (大阪大学)

委員

岡野光俊 (東京工芸大学)

小林範久 (千葉大学)

内藤裕義 (大阪府立大学)

長山智男 (リコー)

半那純一 (東京工業大学)

星野勝義 (千葉大学)

シミュレーション技術部会

主査

門永雅史 (リコー)

委員

伊藤朋之 (富士ゼロックス)

加川哲哉 (コニカミノルタ)

川本広行 (早稲田大学)

仲野正雄 (キヤノン)

中山信行 (富士ゼロックス)

長谷部 恵 (富士ゼロックス)

平林 純 (キヤノン)

前田昌孝 (ブラザー工業)

村社純一 (富士通研究所)

デジタルファブ리케이션部会

主査

酒井真理 (東京大学)

委員

梅津信二郎 (東海大学)

小田正明 (アルバック)

鈴木 明 (千葉大学)

鈴木幸栄 (リコー)

染谷隆夫 (東京大学)

西 眞一 (JAPER)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

画像感性部会

主査

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

委員

鎰谷賢治 (リコー)

北久保 茂 (日本工業大学)

木村正利 (富士ゼロックス)

竹内達夫 (キヤノン)

多田達也 (キヤノン)

西浦美都子 (京セラドキュメントソリューションズ)

服部好弘 (コニカミノルタ)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

松木 眞 (元NTTクオリス)

横山正明 (大阪大学)

コンファレンス委員会

委員長

阿部隆夫 (信州大学)

委員

大西 勝 (ミマキエンジニアリング) 竹内達夫 (キヤノン) 山崎 弘 (コニカミノルタ)
小林範久 (千葉大学) 中山喜萬 (大阪大学)

事業委員会

委員長

大橋豊史 (三菱化学)

委員

上原康博 (富士ゼロックス)

学会標準品部会

画像評価技術部会(伊藤主査)およびトナー技術部会(多田主査)と連携

講習会部会

シミュレーション技術部会(門永主査)と連携

講習会実行委員長 黒須久雄 (リコー)

講習会実行委員

伊東 展之 (キヤノン) 萬道律雄 (王子ホールディングス) 吉澤孝一 (セイコーエプソン)
稲葉 繁 (富士ゼロックス) 水野恒雄 (水野国際特許商標事務所) 吉田 稔 (東芝テック)
笠間 稔 (富士ゼロックス) 山崎 弘 (コニカミノルタ) 和田光央 (三菱化学)

運営委員会

委員長

中居仁司 (ブラザー工業)

副委員長

北久保 茂 (日本工業大学)

副委員長

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

委員

近藤 浩人 (京セラドキュメントソリューションズ) 竹内達夫 (キヤノン) 橋本 清文 (コニカミノルタ)

関西委員会

委員長

北岡義隆 (ハナソニックシステムネットワークス)

委員

岩田将和 (三洋化成工業) 高島祐二 (ハイランドテック) 松坂修二 (京都大学)
大倉浩和 (三菱製紙) 内藤裕義 (大阪府立大学) 三木隆司 (バンドー化学)
金本成一 (ブラザー工業) 中山喜萬 (大阪大学) 水畑浩司 (花王)
狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ) 長江 偉 (三菱電機) 山本雅志 (リコー)
川上哲哉 (京セラ) 夏原敏哉 (コニカミノルタ) 横山正明 (大阪大学)
荘所義弘 (村田機械) 浜田敏正 (シャープ)

選奨委員会

委員長

内藤裕義 (大阪府立大学)

委員

阿部隆夫 (信州大学)

大橋豊史 (三菱化学)

面谷 信 (東海大学)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

酒井真理 (東京大学)

前田秀一 (東海大学)

辰巳節次 (富士フイルム)

中居仁司 (ブラザー工業)

長山智男 (リコー)

浜田敏正 (シャープ)

半那純一 (東京工業大学)

財務委員会

委員長

辰巳節次 (富士フイルム)

委員

笠井利博 (東芝テック)

神野文夫 (王子ネピア)

山崎 弘 (コニカミノルタ)

国際交流委員会

委員長

半那純一 (東京工業大学)

委員

岡 建樹 (コニカミノルタ)

北村孝司 (千葉大学)

竹内 学 (ユーテック)

中山喜萬 (大阪大学)

星野坦之 (東京電機大学)

広報委員会

委員長

長山智男 (リコー)

委員

木村正利 (富士ゼロックス)

内藤裕義 (大阪府立大学)

副委員長

佐藤利文 (東京工芸大学)

中島一浩 (キヤノン)

服部好弘 (コニカミノルタ)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

企画委員会

委員長

酒井真理 (東京大学)

委員

石井 昭 (富士ゼロックス)

大倉浩和 (三菱製紙)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

中島一浩 (キヤノン)

服部好弘 (コニカミノルタ)

堀田吉彦 (リコー)

森下浩延 (出光興産)

革新委員会

委員長

委員

大倉浩和 (三菱製紙)

大橋豊史 (三菱化学)

面谷 信 (東海大学)

竹内達夫 (キヤノン)

中居仁司 (ブラザー工業)

中山信行 (富士ゼロックス)

長山 智男 (リコー)

半那 純一 (東京工業大学)

山崎 弘 (コニカミノルタ)

(26) 2013年度 学会暦

2013年度 学会暦

		2013年												2014年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
金	1												1			
土	2												2			
日	3												3			
月	4												4			
火	5		1					1	NIP29/DF				5			
水	6		2					2	NIP29/DF				6			
木	7		3					3	NIP29/DF				7			
金	8		4					4					8			
土	9		5					5		関東シンポ			9			
日	10		6					6					10			
月	11		7					7					11			
火	12		8					8					12			
水	13		9					9					13			
木	14		10					10					14			
金	15		11					11					15			
土	16		12					12					16			
日	17		13					13					17			
月	18		14					14					18			
火	19		15					15					19			
水	20		16					16					20			
木	21		17					17					21			
金	22		18					18					22			
土	23		19					19					23			
日	24		20					20					24			
月	25		21					21					25			
火	26		22					22					26			
水	27		23					23					27			
木	28		24					24					28			
金	29		25					25					29			
土	30		26					26					30			
日	31		27					27					31			
月	1		28					28								
火	2		29					29								
水	3		30					30								
木	4		31					31								
金	5															
土	6															
日	7															
月	8															
火	9															
水	10															
木	11															
金	12															
土	13															
日	14															
月	15															
火	16															
水	17															
木	18															
金	19															
土	20															
日	21															
月	22															
火	23															
水	24															
木	25															
金	26															
土	27															
日	28															
月	29															
火	30															
水	31															
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																